

## 会 議 録

1 会議名

平成30年度 第3回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

3 開催日時

平成30年9月6日（木） 午後6時30分から午後7時44分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、市橋邦夫、岩澤 弘、  
笠原完治、小林春男、高橋善昭、土屋史郎、前川正治
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

- ・水澤会長、泉委員、植木委員、平原委員を除く10名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定に議長は会長が務めるとあるが、会長欠席により、地方自治法第202条の6第5項の規定により、副会長が職務を代理することを報告
- ・副会長に議長を依頼

【橋本副会長】

- ・会議の開会を宣言

- ・会議録の確認：笠原委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【橋本副会長】

次第3議題(1)「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

前回の会議では、3月の地域協議会で議論した内容のおさらいをした後、和田区で雪イベントを実施し、それに伴う実行委員会を立ち上げる場合、どのような人に声をかけて、どのような人にリーダーになってもらうかについて議論した。結果、関係団体との意見交換会の場面を設定する必要があるのではないかとの意見が出され、今後検討していくことになった。

本日は、過去の会議で委員から意見として出された、雪イベントの具体的な内容、携わってもらいたいと考える具体的な関係団体名などを配布した3枚の資料にまとめたので、和田区で行う雪イベントのたたき台として、イメージを持ってもらいながら、議論できればと考えている。

最初に、事務局から資料にの説明をお願いします。

【佐藤係長】

- ・1つ目の資料は、和田区各団体リスト、2つ目の資料は「雪あかりフェスタ」(仮称)実施運営組織図(イメージ)、3つ目の資料は、和田区雪イベント企画書(イメージ)
- ・これから議論を重ねるにあたり、何か資料的なもの、イメージするものがないと議論がうまくいかないだろうということで、正副会長の指示に基づき、事務局でまとめたもの。
- ・和田区各団体リストについては、8月末現在のもので、大きく2つに分けてある。

1つは「委員から発言のあった団体」、もう1つが「過去に地域活動支援事業で採択した団体（一部のみ）」。委員から発言のあった団体は、この自主的審議を始めてからの様々な会議の会議録の中から抜き出した団体を集約したもの。雪イベントの実行委員会に携わってほしいと考えられる団体についての委員意見をここに掲載している。過去に地域活動支援事業で採択した団体は、平成22年から30年までの間に採択された団体を掲載している。ただし、町内会単独などについては除いてある。

- ・雪あかりフェスタ」（仮称）実施運営組織図（イメージ）について。いわゆる祭りのイベントを開催するにあたっては、一般的に事務局的な担当がいて、ここに総務担当とか、イベント現場の最前線で準備する担当とか、広告協賛をいただく広報担当とか、そういう担当者が必ず存在する。レルヒ祭という冬イベントがあるが、そのレルヒ祭実行委員会の事務局から、参考に団体の組織図を提供いただいたものがこの資料である。レルヒ祭は歴史があることもあり、当初と比較するとイベントの中身も大きく変化しているという話を聞いた。現在は、金谷山周辺で行うイベントの担当者である金谷山部会と、高田の本町商店街で開催するイベントを行うウィーク協賛部会とに大きく分けられている。それと合わせてレルヒ少佐という人物の偉業を伝承していくレルヒ顕彰部会があったり、協賛広告を広く募集する広報部会等もある。これはあくまで参考であり、そのまま和田区で使うということとは、なかなかいかないと思う。仮に和田区で「雪あかりフェスタ」（仮称）というイベントを開催することになったとする。イベントを開催することになると、必然的に実行委員会が立ち上がり、実行委員長と副実行委員長、事務局がそれぞれ決まり、総務担当、イベント担当、広報担当などのような実行部隊ができ上がる。このようなイメージの中で、今回は組織図を作った。これらは、議論する際に委員の皆さんがイメージを膨らませるための参考資料としていただきたい。
- ・和田区雪イベント企画書（イメージ）だが、まずは仮称となっているイベント名であるが、「雪あかりフェスタ」ということで、以前会長と副会長が高土ルミネの実行委員会を視察したという経過もあったことから、将来的には高土ルミネのよ

うな雪イベントを和田区でもイメージしている可能性があるので、名付けた。

- ・ イベントを開催するにあたって、和田区内で集客力があり、公共交通も整っている場所で一番適当と考えられるのが、上越妙高駅周辺、そして駅西口側の近隣にある釜蓋遺跡公園が候補地として考えられる。上越妙高駅周辺はこれまでも様々なイベントが行われているし、釜蓋遺跡公園では非常に広い公園を活用しながら、過去にはオクトーバーフェスト等の大規模イベントが開催されている。
- ・ 高士ルミネで5千個のキャンドルを置いたということなので、それであれば、その倍の1万個の、例えば雪行灯を並べると非常に見応えのある、インパクトのあるイベントになるのではないかとイメージの中で企画書を作成した。
- ・ 開催時期については、高士ルミネが毎年2月頃に開催していることから、同様の時期ということで設定した。高士ルミネが2月なのは毎年開催されている「灯の回廊」に参加しているからであり、和田区の雪イベントも今後それらのイベントと繋がりをもつ可能性があることから、開催時期を同様の2月末に設定した。
- ・ 開催内容は、イベント全体としては2か所の会場を想定している。1か所目が釜蓋遺跡公園、これはメイン会場の位置付けである。その会場には、雪あかりコーナーということで、1万個の雪行灯の制作と設置、夕方に灯りを灯すというスタイルのイベントを想定している。メイン会場には灯りだけではなく、遊雪コーナーとして、「雪だるま」や「雪像」が設置されたスペースも設け、来場者から大いに楽しんでいただく。また、冬のイベントなので、温かい飲食物の提供も必要になってくるということで、屋台コーナーも会場内に設置することも記載した。
- ・ 2か所目の会場は、上越妙高駅前周辺。具体的な場所としては、駅の西口ロータリー周辺から釜蓋遺跡ガイダンス手前の道路。この間に、雪灯籠をいくつも並べ、メイン会場である釜蓋遺跡公園へ来場者を誘導するようなイメージのコーナーを考えている。そして西口空地に、「巨大かまくら」などを制作する。また、以前視察した「雪室」に関するものを紹介するコーナーや雪室を使った商品の展示販売をお願いするのも良いのではないかと考えている。
- ・ 釜蓋遺跡公園と上越妙高駅前における雪だるまや雪灯籠の制作、設置については、例えば、地元の和田小学校と大和小学校のPTAや体育協会などの団体をお願い

するのはどうか。レルヒ祭の高田本町商店街における雪灯籠の制作は、商店街の関係者だけではなく、地元小学生や一般公募者などとも一緒に制作している。いろいろな関係者を巻き込んで関わってもらいながらイベントを開催している。和田区であれば、メイン会場が釜蓋遺跡なので、釜蓋遺跡を紹介する応援団の皆さんにも声掛けして関わっていただく方法もあると思う。釜蓋遺跡応援団の皆さんにとっても、来場者へ遺跡の紹介をする機会もあることからメリットがあると考えている。雪イベントで実際に火を灯すということになると、火災の危険性も考慮し、夜警をお願いする目的もあることから、地元の消防団にも関わっていただく。

- ・釜蓋遺跡公園は市の公園ということもあり、活用する際は市から使用許可を受けなければならない。釜蓋遺跡ガイダンスについては、施設のトイレを来場者用に開放してもらおうという意味で、同様に市から許可を受ける必要がある。併せて施設の駐車場も来場者用の駐車場としてお願いしたらよいのではないかと思う。上越妙高駅周辺についても、土地の所有者から許可をもらわなければならない。
- ・参考資料については、自主的審議の議論を行うにあたり、委員からイメージを膨らませていただくための参考資料であり、決定稿ではないので注意をいただきたい。

#### 【橋本副会長】

今ほどの事務局の説明に対して、意見、質疑を求める。かなり盛りだくさんの内容になっているので、実施するにしてもこの中でまた整理をする必要があると思うし、進めるにしても段階を追う必要がある。イメージとしての説明だったが、どのような印象を持たれたか。

#### 【岩澤委員】

当初よりも規模が大きくなってしまった。最初私たちのグループで雪を利用してうんぬんという議論を行い、それが結果としてこういう形になりつつあるわけだが、いずれにしても、事務局のリーダーになってもらう人が一番重要になってくると思う。和田地区では初めてのケースなので、市からいろいろな応援というか、レルヒ祭は上越観光コンベンション協会が事務局になっているが、私たちもそういう人た

ちの協力を得ることはできないのだろうか。そういう人がいれば、やり方も一番よく分かるだろう。地域活動支援事業の中でも補助金を使って、雪に関する事業をやっている。そういう団体はどのようにやっているのかを、参考にできればよいと思う。ただ、リーダーを受けてくれる人、地元の小学生、町内会長をはじめとする多くの皆さんから協力してもらわなくては、だめなのだろうが、それを持って行ってすんなり、分りましたといくかどうか、心配になってきた。

**【小林委員】**

今ほど話があったように、幅広く、各方面から協力してもらうことが一番大事だと思う。レルヒ祭や実際にやっているイベントを参考にさせてもらうのは、一番手っ取り早くてよいと思う。

**【笠原委員】**

率直な質問だが、雪を使ったイベントを和田区でやりたいことについてまでは地域協議会で決まった。しかし、雪あかりフェスタといった、具体的なイメージまで結論は出ていたか。これは意見の一例に過ぎない。これを実施するとなるとものすごく大変。継続的に開催している高士区ではイベントを実施して3年が経過するが、経費の面を含めて実情は本当に大変だと聞いている。高士区は地元のスポンサーが付いているから開催できている。雪あかりフェスタが成功すれば大変な盛り上げになると思うが、誰に頼むか、実行委員会をどうするか、という前に、この企画書を、みんなでもっと具体的にしなければならぬ。もっと具体的な企画書を地域協議会で作れば、その内容から誰に相談すべきかが見えてくる。だから、企画書の内容を決めるのが先だと思う。この資料は、14人の地域協議会委員の意見が集約されたものではないし、今までこの内容についての議論は一度もしていない。これが一番大事なところ。内容が決まれば、誰にこれを相談したらよいかが見えてくる。まずは具体的な企画書を作らなければならない。これは単なるイメージの企画書ではない。これでは、動いてくれる人はいない。もっと具体的なものを作らないと。イベントは、和田区の全ての団体から参加してもらわないとできないイメージなのか、あるいはもう少し縮小したら、体育協会などの団体だけで開催してもらえる内容になるのか。相手を探すためには、まずは具体的な企画書を作らなければ。これは地

域協議会で作るしかない。提案者は地域協議会なのだから。そうしないと組織は動いてくれないと思う。コンセプトはまだ決まっていないのだから、内容について、もっと話し合わなければならない。

**【橋本副会長】**

これから審議してもらえればと思ったものが1つある。ここに再三実行委員会という話が出てきていて、これはイメージでそんな形を取っているが、実行委員会を作ってやるのかというのが1つ。その実行委員会を作るとなると、例えばどこの団体、あるいはどういう方にアプローチして、いろいろな議論をしてもらいながら、もちろん委員の意見は必要だが、そういうことも合わせて、前回話としては実行委員会を作ったらどうかという程度で終わった。

**【笠原委員】**

どちらが先か、まず実行委員会を立ち上げて、その中でいろいろな提案をして行こう、中身を詰めて行こうというのか、企画書をまず作って、実行委員会なるもののイメージを作って、そこに相談を持ち掛けるか。

**【橋本副会長】**

笠原委員はどちらを言っているのか。

**【笠原委員】**

私は具体的なイベントの企画書を作るのが先だと思う。その企画内容だったら、今ある団体に応援してほしいとお願いすることもできるかもしれない。新しい団体を作るという考え方もある。

**【橋本副会長】**

今の笠原委員の考え方について、いかがか。

**【高橋委員】**

私はとりあえずこの企画書、これはあくまでイメージであって、これをまた細部まで突き詰めて考える必要はとりあえずないと思う。まずはこの企画書を協力してくれそうな団体の代表に集まってもらって、イメージとしてはこんなイベントをやりたい旨を説明する。たぶんその中では、「こんなこと大変だから無理」という声も挙がってくると思う。その話し合いの中で、できることとできないことを整理し、

そのような話し合いを続けることで、どんどん中身が煮詰まっていく。たぶんその方がすんなりと決めることができるのではないかと思う。協議会で、細部まで企画書の内容を考えるととなるとそれこそ大変だと思う。

**【橋本副会長】**

委員だけで企画書の内容を詰め、協力してもらえる団体に説明し、その中で更にいろいろな詰めを行っていくという意見が出た。今の意見からも言えるが、団体との意見交換会を開くという意見は、前回の協議会でも出ていたことから、話が繋がってくると思う。まずは団体との意見交換をするかしないかということを決めないとなかなか進まないのでは。何か気付いたことがあれば意見を出してほしい。

**【市橋委員】**

企画の内容はよいとは思いますが、高橋委員や笠原委員のとおり、内容を全てやるとなったら非常に難しいと思う。各団体にできることとできないことを聞いてみて、雪だるまを作るとか雪合戦をやるとか、まずは小規模でよいから継続可能なイベントにした方がよいと思う。

**【橋本副会長】**

先ほどの意見に近い話か。

**【市橋委員】**

両方ともよい意見を合わせてみた。

**【笠原委員】**

個々のイベント内容から相談するのなら、相手は自然に出てくると思う。こんなに大々的な内容であれば引き受けてくれる団体はいない。私も和田地区振興協議会のメンバーであるが、この内容ではできない。だから、最初は小さなところからスタートするのも1つの手だと思う。体育協会に相談し、協会の年間行事の一環として冬に活動をやって盛り上げようとか、そういうイメージが浮かぶのだが。そういうコンパクトな形からスタートしないと。

**【市橋委員】**

最初はその方がよい。

**【高橋委員】**



開催するからには、人が集まって、賑わっているようなイメージ。まずイメージから入ってはどうか。とりあえず集まって、何かちょっとやろうというのでは違うと思う。最初はイメージだけでも大きく膨らませておいて、その中で現実的に無理と思われるものをカットするとか、いろいろ意見交換しながら行う。イベントを行うということになれば、たくさんの協力が必要になるわけだから、このイベントを開催する意味や、行う理由が見えてこない。とりあえず雪を使って何かイベントをやろうというのでは、うまく気持ちが伝わらないと思う。このイベントを開催して何をしたいのかといった部分が明確になっていない。団体に来てもらい、企画書を見せても、最終的に何を求めているのかが分からないといったことになりかねないと思う。

**【前川委員】**

前回の会議では、実行委員会を立ち上げ、様々な団体から協力してもらったらどうかという意見が出た。まずは実行委員会をきちんと立ち上げた方がよいということで。その話の延長として、イメージの企画書が今回示されたと思っている。私自身、これはあくまで事務局が考えたイメージなので、私たちがこのイメージの中身を考える必要はないと思う。「雪を生かした地域づくり」でイベントをやろう。しかし、地域協議会委員だけではできないのだから、団体から協力してもらい、実行委員会を立ち上げていくという話である。今回団体リストとイメージの企画書が配布されたが、これはこれとして、いろいろな意味を持って事務局が考えてくれたものだが、実際にこれをやるかどうかではない。まずは実行委員会を立ち上げるためにはどうしたらよいかということを我々がきちんと話していく必要があると思う。その後、笠原委員のとおり、企画書を我々だけで作って、各団体に持って行き、お願いし、賛同を得ていくのが先ではないか。このイメージの企画書の中身を検討するのではなく、実行委員会の組織をきちんと立ち上げるのが大事だと思う。

**【橋本副会長】**

実行委員会組織を立ち上げるにはどうしたらよいと考えるか。

**【前川委員】**

だからそういったものは我々で話し合い、きちっとした企画書を作って、各団体

をお願いに行き、集まってもらい、実は地域協議会でこういう「雪を生かした地域づくり」で提案したいが、いろいろな意見があったら教えてほしいとか、協力してほしいとかいう方向に持って行く方がよい気がする。

**【橋本副会長】**

そうすると、これはという団体さんに、意見交換会を開催するかと聞くことになる。ただ開催するには今あるイメージの企画書を持って行っても話にならないので、もう少し噛み砕いて作成し、説明して来てもらおうと。その中でいろいろな意見を出してもらおうという意味か。

**【前川委員】**

その通り。

**【有坂委員】**

雪を使って何かをやりたいという話は以前から出ていて、何度か会議の中に挙がってきている。そういう何かをやりたいという話は出ているが、何かもう1つ具体的な内容が見えていない。これから実際にイベントとして進めていくためには、最低限、地域協議会で基本的な細かいところはよいが、おおざっぱにこういうことをやりたいという企画書を作り上げ、それから実行委員会なり、外部のいろいろな団体に話を持って行かないといけないと思うので、もう少し地域協議会で何をしたいのかという基本的な考え方だけでも、まとめていく必要があると思う。

**【橋本副会長】**

委員から具体的な内容を出してもらおうということか。

**【有坂委員】**

その通り。あまり細かく決める必要はないが、イメージの企画書として挙がっている内容は、全くそれに合わせなくてもよいが、例えば雪行燈や雪灯籠を作って人を呼ぶという考え方にするのか、いろいろな方法があると思う。まずは基本的な考え方だけを決め、それから団体等に話をする。笠原委員のとおり、企画書がある程度作ってから話をしなければ、聞かれた方も何をしたらよいのか分からなくなってしまい、空中分解しそうな気がする。もう少し話を詰めていかないといけないと思う。

**【橋本副会長】**

高橋委員、今の意見はどうか。

**【高橋委員】**

よいと思う。

**【土屋委員】**

イメージの企画書としては、盛りだくさんの内容でできていると思うが、ではこれをこのメンバーで詰めて行き、何ができるかという、なかなかできないと思う。ある程度総花的にいろいろなものが出てしまっているから。企画書の内容をどの団体に相談していかなければならないかについては、団体リストからある程度見えてくる。だから、そういう人たちに、できるだけ早い段階から参加していただいて、もう少し内容を練っていったらよいと思う。例えば雪あかりとか、遊雪コーナーであれば、体育協会や小学校のPTAとか。いつまでも、こういうことを詰めているとなかなか前に進まなくなる。もっと具体的に進めていかないと。

**【橋本副会長】**

委員が言おうとすることは皆同じような気がするが、前回の会議でも話が途中だった意見交換会の開催についてはいかがか。意見交換会を開催するために委員の中でいろいろなものを詰めていくことは当然やらなければならない。その辺を含め、前から話が出ている意見交換会を開催するのであれば、そういう前提で、今の話を絡めて具体的に進める。また、意見交換会を開催するにしても、いつするのか、どんな団体に集まってもらうのかなどを決めていく必要がある。委員だけで内容を詰めた企画書の案を持って各団体と意見交換をするというのも1つ。それから今の土屋委員の意見。意見交換を開催するかどうかをあわせて今日ここで決めてもらえば、話が先に進めるのではないかと思う。

**【笠原委員】**

意見交換会というのは非常に大事なことで、いずれにしてもやらなければならない。それは和田地区全ての人賛同を得てイベントを開催したいから。ただそれだけを急いでしまうと、高橋委員の言われた「何のためにイベントを開催するのか、これが和田地区にどういうことをもたらすのか」といったことを私たちの中で詰め

ていないので、相手に説明することができない。賛同を得るためには、その大事な部分を委員全員で押さえておかないと、そこは非常に大事なところだと思う。具体的な企画書というのは、その意味も含めて、何のためにこれだけの労力を使ってやるのか、これは結局こういうためにやるといったことは少なくとも必要。軸をちゃんと作らないとぶれてしまう。

【橋本副会長】

意見交換会を開催するとなると、何をやるのかとか、何が地域のためになるのかという部分を詰めた上で話を持って行くということか。

【笠原委員】

詰めていくのではなく、相手に説明する際にそれが必要。

【橋本副会長】

それは当然必要だと思う。

【笠原委員】

その時に、大風呂敷を広げて説明するのか、あるいは個別のところから入っていくのかというのは出てくる。大風呂敷を広げて、とにかく全てを提案するという話も分からなくはないが、何のための提案かということはきちんと押さえておく必要がある。

【橋本副会長】

それは必要。そうでなければ、言われた方も困るだろう。

【前川委員】

まずは委員でその部分から決めていくのはどうか。

【笠原委員】

委員だけでできるのか。

【前川委員】

まず意見交換を実施するという前提で、我々はそのために何を準備して、どのような団体にお願いするかという方向から決めたらどうか。

【土屋委員】

賛成である。

**【橋本副会長】**

いろいろな意見が出ているが、まずは委員の中で内容を決めると。それができたら意見交換会を開催するというところでどうか。それには事務局が用意した、たたき台のイメージは使うことができると思う。

**【有坂委員】**

基本的にはそのような考えで良いと思う。要するに協議会で何をしたいのかということを決めて、それから意見交換会をし、修正点を加えながら、基本的に我々はこうしたいということを決めていかないと、話を前に進めることはできないと思う。

**【橋本副会長】**

皆さん、スタートはそういうところでよいか。まずは、地域協議会の中で、何をするか、何のためにするかという目的をきちんと決めて、それに基づき意見交換会を開催する。その中でいろいろな意見が出てくるはずである。そうすると先程の話で、意見交換を行うということになれば、いつ開催するのかということになる。

**【岩澤委員】**

その目的というのは一体何か。和田地区の住民が楽しむためにやるのか、あるいは外からの観光客を相手にするのか。地域住民が楽しめばよいのか、地域住民で楽しむイベントから、観光で来られた方も巻き込んだ状態に持っていくべきなのか。その辺はどうなのか。

**【有坂委員】**

そういうことを含めて、これから協議会で決めていくということ。

**【岩澤委員】**

分かった。

**【橋本副会長】**

そうなる、いつまでにするか。次の協議会か、あるいは改めて別に時間を設けるか、いろいろと考えられると思うが、その辺はいかがか。

**【土屋委員】**

恐らく今年度中のイベント実施は無理だろう。来年度になってしまう。

【橋本副会長】

我々だけではなく、団体も関係してくる。

【土屋委員】

どのようなスケジュールで進めて行ったらよいか。

【笠原委員】

今回の会議で全部決めればよい。目的や何のためにやるのかなど、大義名分をしっかりと結論付けてしまう。そこができれば、関係団体を呼んで意見交換をすればよい。

【有坂委員】

確かに1年間議論をしてもまとまらないものはまとまらないし、ゴールを決めてからでないといけない。

【笠原委員】

今回の会議の目的をしっかりと伝えておいて、委員の意見を一気に出してもらう。

【橋本副会長】

今回の協議会という案が出ているが、いかがか。

【小林委員】

10月11日の協議会でよいのではないか。

【笠原委員】

イベントをやる目的等は、きちんと委員全員で決めていく。

【土屋委員】

何のためにイベントをやるのか。住民のためにやるのか、観光客などの外来者のためにやるのか。

【市橋委員】

目的くらいはこの会議で決まるのではないか。

【笠原委員】

いや、すぐには決まらない。目的は「和田を元気にしたい」か。

【市橋委員】

それでよい。目的を観光にするというのは、後日の話。和田地区では冬に何もな

いから、何かイベントをやって人を集めたいというのが、最初に我々が提案した根本的なもの。だから目的はそれしかない。それをお客さんにたまに見てもらおうとか、電車で来てもらおうとかはあるが。

**【笠原委員】**

開催日に駅で降りたお客さんは、たまたま降りたということでイベントに参加すれば丁度いいのではないか。このイベントの主役は和田区の住民。

**【市橋委員】**

だから目的はそれで決まってしまうのではないか。

**【土屋委員】**

イメージとしては和田区の「冬の運動会」という感じ。

**【市橋委員】**

みんなで競争してかまくらを作ったり、雪合戦をしたり、子どもたちによる雪中宝探しとか。当初はそういうイベントが出されていたのに、いつの間にか大規模になってしまった。

**【笠原委員】**

スタートはAグループが発案したものだった。雪室という話もあった。雪室や雪合戦、運動会など。しかし、時間が経つにつれて、イベントの規模が大きくなった。一回ここで、まとめなくてはならない。

**【市橋委員】**

イメージの企画書は立派な内容だが、そこまでというのは現実的に難しいと思う。最初は小規模で。

**【笠原委員】**

イベント内容について、大風呂敷を広げてスタートしようというのもある。今はそういう意見。

**【市橋委員】**

だから以前に、大風呂敷を広げるなら、必ずお金が絡んでくるから、地元のスポンサーを入れなければ駄目だと言った。

**【小林委員】**

地域活動支援事業の補助金があるのではないか。

【土屋委員】

地域活動支援事業もあると思うが、額にも限度がある。

【小林委員】

補助金を活用するのが前提だと思う。

【笠原委員】

それは基本。

【土屋委員】

補助金総額610万円を全部使うわけにはいかない。

【小林委員】

私は全部でも構わないと思うが。

【笠原委員】

その考え方もある。

【市橋委員】

民間企業からの寄付については、例えば、お客さんの中に鉄道利用者もいるだろうから、鉄道会社から少しでもよいので寄付してほしいとか。寄付金集めであれば我々委員もやってもよい。企業へお願いに行ってきたら、鉄道会社くらいならいくらでも行く。

【有坂委員】

お金の話はまたその後の話になる。今は先程のイベントをする理由と、何をしたいのかという基本的な考えをまずはまとめる。それからでよいのではないか。

【橋本副会長】

それを11月の協議会でするのか。

【有坂委員】

次回10月の協議会で内容をまとめる。

【橋本副会長】

この件については、次回の協議会に各委員から自分の意見を持ってきてもらい議論をしたいと思います。意見交換会はそれ以降ということで。



**【佐藤係長】**

今一度確認するが、次回の地域協議会は、イベントの目的や内容等を委員からあらかじめ考えていただいたものを企画書の内容としてまとめる会とする。企画書が完成した段階で、意見交換を開催するにあたっての具体的な詰めをしていくようなイメージの進め方でよいか。

**【橋本副会長】**

次回の協議会で、企画書の内容を詰めるということ、その終了以降に意見交換会を開催するような進め方でよいかについて諮り、出席委員全員の上承を得る。

**【佐藤係長】**

先ほどの高士ルミネの事業と、地域活動支援事業についての話があったと思うが、本日配った平成29年度地域活動支援事業の事例集に、高士区地域活動支援事業として「雪まつりキャンドルイベント」が掲載されている。ここでは、事業費241万6千777円に対して、地域活動支援事業補助金が238万9千円充てられている。和田区でイベントを考える際の参考としてほしい。

**【橋本副会長】**

次に進みたいと思う。現在和田区地域協議会では、自主的審議事項を2件取り上げている。「雪を生かした地域づくりの推進」と「住民組織の充実と地域活性化」である。雪の自主的審議を詰めていけば、イベントのリーダー像や、こういう組織がよいといった議論がされて、見えてくる部分もあると思う。2つの自主的審議を一緒に審議してもよいのではないかという話もあったので、委員におかれては、今後それらも念頭に考えていただきたいと思う。

—事務連絡—

**【橋本副会長】**

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

**【佐藤センター長】**

- ・ 次回協議会：会議の日程調整の結果を配布

10月11日（木）午後6時30分～ ラーバンセンター

・配布資料

高田区地域協議会意見書の写し

平成30年度和田区地域活動支援事業提案書（減額修正後）の写し

平成29年度上越市地域活動支援事業事例集

創造行政研究所ニュースレター「創造行政」

【橋本副会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。